# 水稲技術情報　ＮＯ－３

平成３０年４月５日
営　農　支　援　課

## 水稲生産は健苗育成から

現在、消毒又は浸種中のことと思われますが、浸種中に水温が低く経過した場合などは、催芽前に予備催芽(２０℃前後)を、２４時間程度実施する方法もありますので参考にしてください。その場合、催芽時の出芽が早まることもあるため、こまめに催芽状態の確認をしてください。

いもち病の発生主因は発病苗・感染苗の「持ち込み」です。苗いもち防除においても万全を期すようお願いします。

### 1. 播種時の苗立枯病･苗いもち病対策[1L/箱散布]

１）床土にタチガレエースＭ粉剤等を混和していない場合は播種時に液剤を灌注する。

２）床土に焼土を使用している方や苗箱まかせを使用している方については、播種時の**灌水量をやや多め（１Ｌ／箱当り）**にし、乾燥障害（出芽ムラ）を防いでください。

| 薬　剤　名 | 希釈倍率 | １箱当り散布量 | 散布箱数 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| タチガレエースＭ液剤　500ml | 1,000倍 | １Ｌ | 500箱 | 苗立枯病 |
| ベンレート水和剤(赤袋) 500g （エコホープを使用する場合は 2.0 葉期以降に灌注） | | | | 苗いもち病 |

３）灌水時のｐＨ調整として、クエン酸を使用する場合は 1,000 倍に希釈する。

◆箱粒剤による葉いもち病の防除

| 薬剤名 | 使用時期 | 施用量 | 包装単位 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| ルーチン粒剤 | 播種時～田植当日 | 30g | 1kg･10kg | 葉いもち病 |
| Dr.オリゼ箱粒剤 | 緑化期～田植当日 | | 1kg | |
| ※ オリゼメート粒剤 | 田植3日前～田植前日 | | 3kg･10kg | |

**※ オリゼメート粒剤については、６月末頃までの効果しか得られません。**

### 2. 発芽後の苗立枯病対策[500cc/箱散布]

１）シルバーポリ等の保温被覆資材の除去時・除去後は、つぎの点に注意を払いながら管理にあたってください。

①保温被覆資材の除去直後に床土の表面にクモの巣状のカビが見られたら、速やかに表面を乾燥させる。

②保温被覆資材は発芽状態を確認しながら、出芽長０.５㎝を目安に(３日～４日程度)除去する。被覆中でも被覆内の地温が 40℃以上の場合は、風下の側面ビニールを開け、温度が下がらないようであれば、風上も 10 ㎝程度開けハウス内の換気を行い夕方閉める。

２）立枯れ症状が見えた場合は菌の種類を確認のうえ、下記の薬剤散布で防除に努めてください。

| 病原菌の種類 | 原因や症状等 | 薬　剤　名 | 希釈倍率 |
|---|---|---|---|
| フザリウム菌 | 低温が原因。根や苗の地際部が褐変腐敗し、生育ムラや枯死する。籾の周囲に白やピンク色のカビが見え、根は茶色くなり発根が停滞する。 | タチガレエースＭ液剤 | 500 |
| ピシュウム菌 | 低温多湿が原因。カビは見えないが、地際の茎や根がアメ色や茶色に変色腐敗する。育苗後半のムレ苗の原因でもある。 | | |
| トリコデルマ菌 | 土の乾燥が原因のひとつ。土の表面や籾の周辺に白や緑色のカビが見える。エコホープ菌と区別し辛いが、感染苗は発根が停滞し、葉が黄化する。比較的発症は少ない。 | ベンレート水和剤 | 500～1,000 |